

— 東都の地より富士見町を応援しています —

東都高原富士見会だより

総合文化祭に寄せて

11月2日から4日にかけて開催された第53回富士見町総合文化祭に、今年も東都高原富士見会から出展者16名、約50点の作品を出展させていただきました。

陶芸を出展した小林さんは、作品作りに欠かせない土や薪にも興味があり、工事現場の近くを通ると土に目がいってしまおうし、松の木を見ると火力が強そうだなと思う、と話してくれました。

現在、八王子市にある「サマーランド」付近の裏山から、ナウマンゾウの化石が発見された事を知り、その周辺の土を使い焼いた陶器を「ナウマンの器」と命名したロマン溢れる話や、地元で焼き窯や和紙漉き工房を作ることにも関わった話も聞かせてくれました。



書を出展した五味さんは、現在も会社を経営し、現役で仕事をこなしておられますが、「これまで習い事をしたことがなかった」と自身の人生を振り返り、77歳から習字教室に通い始め、週1回の指導を受けているそうです。

最高段位である師範を取得することを目指して自宅でも日々練習を重ねているとのこと。集中して練習するから晩酌も控えるし、よく眠れるようになったよ、と笑顔で話してくれました。

「師範免許」を取得し、教室を開いて他の人に書道を教えることができるようになったら、東京にいてもインターネットで富士見の子供たちに教えることができるかもしれないと夢を語ってくれました。他にも紹介させていただきたい作品がたくさんありますが、今回お話を伺ったお2人の若さの秘訣は、良いものを積極的に取り入れて、変化することを恐れない姿勢だと感じました。(文責：池田みかほ)

まちの「話題」や「イベント」をご紹介します

News Fujimi



◆10月20日(日) 高原の縄文王国収穫祭

さわやかな秋晴れの下、初穂の奉納や「くく舞」の披露、古代米や鹿肉の振る舞いなど、縄文から続く富士見町の歴史を感じる1日となりました。



◆10月27日(日) 不用食器回収&もったいない市

今年で6回目となる今回は、天気にも恵まれ大勢の人が食器を持ち寄りました。参加者は「どんな料理を作ろうか、お皿を見ているだけでも楽しい」と笑顔で話してくれました。



◆11月2日(土) 縄文ハロウィン

台風19号の影響で延期となった「縄文ハロウィン」が、恵まれた気候の中盛大に開催され、仮装行列では思い思いの仮装をした皆さんが、楽しそうに行進しました。

広告

